

教科書に載った「松坂の一夜」

その後、早くも大正7年に、「松坂の一夜」は、小学生の読本にふさわしく平易に書き直されて『尋常小学国語読本 卷十一』に掲載され、その後も大正から昭和にかけて広く読まれることになる。以下、「松坂の一夜」のテキストに関して、参考になるウェブサイトを下に紹介しておく。

- 1 「松坂の一夜」のテキスト（「佐佐木信綱、『賀茂真淵と本居宣長』所収のもの」

http://www.norinagakinenkan.com/norinaga/kaisetsu/ichiya2_siryu.html

- 2 「教科書に載った『松坂の一夜』」（「松坂の一夜」を載せた教科書について有益な記事。）

<http://www.norinagakinenkan.com/norinaga/kaisetsu/ichiya1.html>

（1、2 いずれも松坂市の本居宣長記念館のウェブサイト）

- 3 「松坂の一夜」のテキスト：『尋常小学国語読本 卷十一』（昭和4年版）所収のもの。

（出所：榛原守一氏のウェブサイト『小さな資料室』の記事「資料362「松坂の一夜」（『尋常小学国語読本 卷十一』所収）」 <http://sybrma.sakura.ne.jp/362matsusaka.jinjou.html>）

- 4 『尋常小学国語読本 卷十一 尋常科用』（昭和14年版）の表紙と本文の実物写真

（出所：納光弘氏のウェブサイトの記事「思うこと 第288話 小学国語読本による戦前の小学生教育『松坂の一夜』の紹介」 <http://www5f.biglobe.ne.jp/~osame/omoukoto/288wa-motoori-norinaga/288wa-motoori-noringa.htm>）

- 5 「松坂の一夜」のテキスト、『初等科修身 四』（昭和17年版）所収のもの。

（出所：榛原守一氏の『小さな資料室』の記事「資料361「松坂の一夜」（『初等科修身 四』所収）」 <http://sybrma.sakura.ne.jp/361matsusakanoichiya.html>）

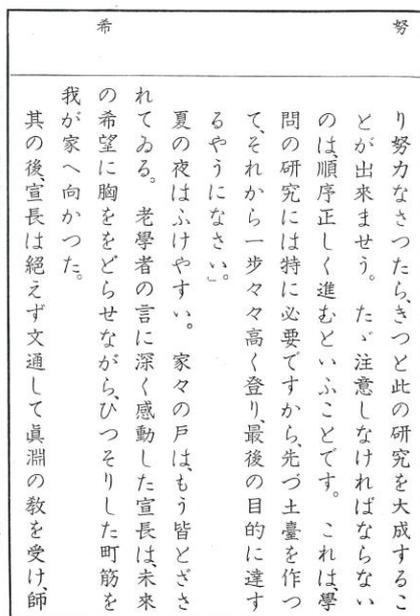
*下の画像は上記の納氏のウェブサイトより引用。

榛原氏や納氏のような篤学の士や宣長記念館のお蔭で、われわれが容易に「松坂の一夜」に関して複数のテキストを手にする事ができるのはありがたいことである。

「松坂の一夜」のテキストのなかでは、当然、大正6年の『賀茂真淵と本居宣長』所収のものがもっとも詳しく、語彙も難しい。

大正7年に発行された『尋

常小学国語読本』のテキストはそれを平易かつ簡潔にリライトしたものだとは分かるのは、榛原氏が翻刻



している昭和4年版が、句読点の違いはあるが、大正7年版のテキストの再録だという紹介による。

さらに、納氏が写真で掲載している昭和14年版は、大正7年版の『読本』より簡潔、平明になっている。「松坂の一夜」は、昭和17年版の『初等科修身 四』にも掲載されたわけだが、そのテキストは漢字を平仮名表記にしたところもあるがほぼ昭和14年版『読本』と同文である。

テキスト間に異同があるにせよ、「松坂の一夜」というタイトルのインパクトは変わらない。

この題名が宣長と真淵の「出会い」の出来事性を喚起する重要な役割を果たしていることは注意してよい。

その上で『賀茂真淵と本居宣長』所収のテキストと国定教科書掲載のテキストを比較すると、それぞれの狙いがよく分かって来る。

特に、国定教科書の方では謙虚に学ぶこととひたむきに努力することの重要性が強調されているが、実は、そのメッセージが響くのは、たった一夜の出会いが『古事記伝』という偉業の達成の基になったという物語化の巧みさによる。

この点、高木市之助が「この種の教材でおそらく一番よくできているのは、白表紙本では、巻11に載った『松坂の一夜』ではないかと思います。真淵・宣長師弟の美しい出会いを描いたこの教材を懐しく思い出す人たちも多いはずです」と証言していること（『尋常小学 国語読本』、高木市之助述、深萱和男録、中公新書、p.67。引用文中の傍点は引用者による。）は、学問上の出会いが「師弟の美しい出会い」の物語として享受されていたことを示す資料として貴重であろう。

2020年3月28日 研究代表者 西澤 一光